MMC卒後臨床研修センター
MMC通信

発行日　平成20年1月15日（第30号）
発行元　NPO法人MMC卒後臨床研修センター【担当/若松】
514-8507 三重県津市江戸橋2-174三重大病院西棟10F
Tel 059-231-5429 FAX 059-231-5440
URL http://www.mmc-center.com
E-mail tsushin@mmc-center.com

２００８年　新春のごあいさつ

ＮＰＯ法人MMC卒後臨床研修センター　理事長　内田淳正

新年あけましておめでとうございます。本年もこれまで同様にMMC卒後臨床研修センターの活動にご支援をよろしくお願いします。三重県の主だった病院、行政、大学が一体となって卒後研修に力を注いでいることは全国的にも高く評価されています。そして、その成果が注目されています。われわれ自身の評価はどうでしょうか。

指導者講習会、合同説明会など評価できる面もいくつかありますが、三重県の医療からみた卒後研修という観点からしますと共通認識が今ひとつ希薄ではないでしょうか。「総論は大いに賛成であるが、各論となると反対せざるをえない」議論は寄せ集め集団の常です。そして、MMCが乱用されすぎて、内容を失うかもしれません。戦後、平和と民主主義について言われすぎたため、おかげでその真の姿を見失ったことはご存じの通りです。

個々と全体の利益をハーモナイズできるのが優れた組織です。MMCはそれを目指そうではありませんか。

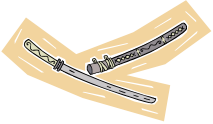
本年が皆様にとりましてすばらしい年でありますよう。

新春のご挨拶　～医療戦国時代？～

ＮＰＯ法人MMC卒後臨床研修センター事務局長　安井浩樹

新年あけましておめでとうございます。法人、個人会員、研修医、役員、および日頃よりご支援を頂いている関係の皆様におかれましては、旧年中は大変お世話になりMMC事務局一同御礼申し上げます。旧年中にかわらず本年もよろしくお願いいたします。

さて昨年、一昨年とＮＨＫの大河ドラマは、風林火山、功名が辻といった戦国時代小説を扱ったものでした。今までも何度も取り上げられたテーマではありますが、主役がそれぞれ、信玄や秀吉、家康ではなく、山本勘助や山内一豊（正確には妻の千代）といった、歴史の上では脇役を演じた人でした。足利幕府が崩壊し、徳川幕府ができるまでの様々な人や価値観が交錯する熱い時代を生き抜いた脇役達に、少し大げさでお恥ずかしい話ではありますが、様々な人間関係やその立場の中で苦悩する自分を重ね合わせながら見ていたものです。しかしながらドラマを通して勘助や一豊は、そんな時代にいやそのような時代だからこそ、自分の世界と夢を持って生きることの重要性を教えてくれた気がします。現在三重県はじめ全国各地で戦争状態でこそありませんが、医療システムが疲弊、崩壊し、助かる命さえ助からないという状況を考えると、先の見えない時代という意味において、まさに医療戦国時代なのかもしれません。今年が、川中島の年になるか、関ヶ原の年になるか、あるいは大坂夏の陣になるか知る由もありません。戦国時代は天下取りをテーマに語られることが多いとは思いますが、多くの住民の立場からみれば（誰によっては問題ではなく）まさに天下泰平を希求する時代だったといえるでしょう。全国とはいいませんが、せめて三重県の医療システムが安泰となることを願うばかりです。



今年ＮＰＯ法人MMC卒後臨床研修センターは、設立５年目を迎えます。ＮＰＯ設立当初の目的である卒後臨床研修や地域医療の充実に地域一丸となって取り組むということの重要性は、残念ながら予想以上のペースで進む医師不足や地域の医療崩壊の問題によってより明確になってきていると云わざるを得ません。しかしこんな時代だからこそ、夢をもって三重県の住民のひとりとして頑張っていきたいと思います。事務局員一同、本年もよろしくお願いいたします。

MMC卒後研修臨床懇話会　開催間近です

今年で第４回目となる「MMC卒後研修臨床懇話会」が**1月19日（土）13時より四日市都ホテルにて**開催されます。今年度は県内１０病院から２３名の研修医が４つのセッション（内科系２、外科系１、その他１）に分かれて症例発表を行います。発表後の質疑応答では例年活発な質問や意見が飛び交い、出場者のみならず来場してくださった皆様にとっても有益な会になると予想されます。また懇話会後には表彰式並びに懇親会も予定しておりますので、皆様お気軽にご来場ください。（左下写真は昨年の第３回大会の模様です。）

MMC新規会員のご紹介!!

☆医療法人松徳会 花の丘病院

松阪市山室町707-3

情報コーナー

☆第5回MMC Advanced OSCE大会

〈日　時〉 平成20年3月8日　13:00～
〈会　場〉 松阪中央総合病院
☆県内の一年目研修医が【OSCE（Objective Structured Clinical Examination）】を通じて、研修で培った患者接応能力や技能・成果を競い合うと同時に病院の枠組みを超えた研修医・指導医の交流を行う大会です。出場を希望される研修医の方はMMCのHPより申込書をﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞして下さい。

☆MMC病院説明会

〈日　時〉 平成20年3月20日（木・祝）
〈会　場〉 三重県総合文化センター
★三重県内の研修病院が一堂に会して病院説明会を行います。三重県内で医師を志す方ならどなたでも参加できます。申し込み不要・入場無料ですのでお気軽にお越しください。

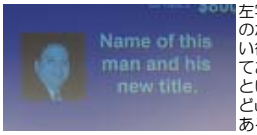
☆新研修医オリエンテーション

〈日　時〉 平成20年4月4日（予定）
〈会　場〉 三重大学三翠ホール

ちょっと太り気味ドクターの～スタンフォード旅行記～

第３回～Geopardy～

西海岸にある大学の特徴かもしれないが、スタンフォードには実にいろいろいろな人種のレジデント達がいる。アジア系、南米系、欧米系…、まさに【It’ｓa small world】状態であった。それらのレジデントが約50名程集まり、朝のカンファレンスルームは笑いと活気に満ちていた。部屋の大きなテーブルを中心に、右側、左側、後方の３チームに分かれ、それぞれ、ヒラリー・クリントンチーム、ジュリアーニチーム、あともう１チームの写真、そしてその下には“獲得金額”（もちろん$）が表示される（写真参照⇒）。次に心電図、自己抗体、EBM、ガイドラインといった医学的な項目とTOPICという項目に、問題の難易度によって金額が割り振られたマトリックスパネルが正面スクリーンに表示される。回答者は“自己抗体の$100!!”といった感じで手を挙げ（正確には指を挙げている）問題を選び、司会者がクイズショーさながらのトークとふりでそこをクリックすると、“MCTDに特異的な自己抗体は？”といった問題が出され、正解するとそのチームに得点が加えられる。難易度は様々で、国家試験程度の問題からUp to dateな話題まで幅広い。心電図の問題では、“Takotsubo cardiomyopathy”がとりあげられていたり（左写真）、喘息のガイドラインからの出題もあった。面白いところでは、「Virchowの三徴、Charcotの四徴、Raynoldsの五徴はそれぞれ何のサインか？」というものもあった。基本的なものばかりであるが、いざ並べられると一瞬戸惑ってしまう。Topicでは、ある人物の写真がでて“この人は誰で、新しい肩書きは？”といったものもあった。問題となった左写真の人物はどうやら医学部のかなり偉い方らしいが、新しい役職についてはあまり知られておらず、みんなが「へぇー」という感じであったので、よほどup to dateな話題だったのであろう。このようなイベントは「Geopardy」とよばれ、前回も述べたようにチーフレジデントがその問題作成や準備を担当し、月に一回開催される。何か医学の勉強やEBMの研修というと堅苦しく考えがちであるが、とにかく勉強や研修を楽しんでやろうという姿勢にはとても感銘を受けた。内容的にはむしろ基本的なものが中心で学生教育の現場などでも使えそうなものであり、是非三重大でもと思い、「そのソフトウエアはどこで手に入れるのか」と滞在中何人かに聞いてみたが、結局よくわからなかった。チーフレジデントの“ジャスミン”（＊第2回参照）に聞くことができれば良かったのであるが、残念ながらそれはかなわなかった。



この朝のイベントの興奮がさめやらぬ間に、滞在中おそらくもっともお世話になることになる、シニアレジデントDr. Ko Yamadaを紹介された。米国やスタンフォードの医学教育についてや、レジデンシープログラムについて、現場からの生の声を聞かせてもらうと共に、VA Hospital(退役軍人病院)を案内していただき、米国について医療や政治の面からも考えることになる。